

各地区で『つなげる具体』が実践されています！

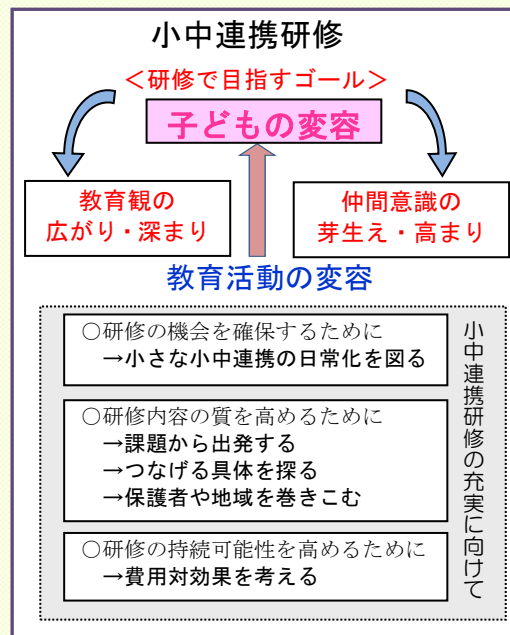
<平成 23・24 年度の成果と課題>

○成果

本市では、小中連携を教職員の「研修」として取り組んでおり、目的は教職員の資質の向上です。そのためには、この研修の目指すゴールを、教職員ではなく「子どもの変容」に置くことで、協議内容や実践がより具体的となり、教職員の意欲も高まります。そして、その過程で教職員の「教育観の広がり・深まり」と「仲間意識の芽生え・高まり」が得られ、それが小中連携研修を通して得られる本質的な成果となることが明らかになりました。

○課題

「教育観の広がり・深まり」と「仲間意識の芽生え・高まり」を小中連携研修を通して得られる本質的な成果として捉えたとき、今後の課題として①「研修の機会の確保」②「研修の質の向上」③「研修の費用対効果の向上」に取り組むことが大切だと考えます。特に重要なのは「研修の質の向上」であり、情報交換や課題の共有から一歩踏み出して子どもの変容に迫るためには、つまり『つなげる具体』(小・中学校の教職員が共有し、実践していくもの)を明確にして協議や実践を進めることが今後の課題です。



小中連携研修を充実させるための全体構造図

<平成 25・26年度課題研究>

<研究仮説>

「小中連携」の『つなげる具体』を明確にもつことができれば、より充実した小中連携研修が可能になり、その成果は子どもの変容に生かされるはずである。

<各地区及び教育センターの取組>



○各地区の取組 ～「つなげる具体」の設定～

【生活・生徒指導】

- ・「時間、あいさつ、返事」の凡事徹底
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」指導
- ・無言清掃
- ・自尊感情の育成
- ・防災教育
- ・モラル、規範意識の醸成

【学習指導・学力向上】

- ・話し方、聞き方ステップ表
- ・聞いて考える授業
- ・家庭学習の充実
- ・言語能力個人シート
- ・中学校教員の小学校への出張授業
- ・中学校の授業における小学校教員とのT.T

【授業改善】

- ・授業研究でつなぐ
- ・学んだことを実感できる授業
- ・小学校の教員が中学校で授業、中学校の教員が小学校で授業を行う授業交換

※平成 25 年度近隣校研修実施報告書より

○教育センターの取組 ～各地区の研修支援～

- ・研修内容の助言
 - ・研修会への指導主事派遣
 - ・各地区の取材、かわら版による実践紹介
 - ・研修会の予算補助（講師謝金、会場使用料）
- ※講師謝金・会場使用料の予算補助の申し込みについては、研修ガイドブック p.52 を参照してください。

今までの研修から一歩踏み出し、各地区の課題に応じた『つなげる具体』を設定して、研修会での協議内容、授業参観の視点、日々の教育実践を明確にした取組が行われています。

○『教科指導でつなぐ』【中島中学校区】

- ・国語、理科、算数・数学の部会をもち、教科書を見ながら、小・中学校の学習内容の確認



小・中学校でのそれぞれの学習内容を知ることにより、小学校から中学校へのつながりを意識した授業展開を考えることができます。

○『小・中学校それぞれの教職員のよさを生かした授業交流でつなぐ』

- ・小学校教員（元6年部）が中1の数学の授業に T.T で参加
 - ・中学校の英語科、音楽科、体育科の教員が小学校で指導
 - ・小学校教員が中学校で、中学校教員が小学校で授業実践
- 【清水袖師中学校区、西奈中学校区】



中学校の授業に入ることで、小学校での課題を知ることができ、日頃の指導に生かすことができます。小学校の授業に入ることで、児童のよさを知り、中学校で継続的な指導に生かすことができます。

○『小・中学校での学習スキル（話す、聞く、書く）を統一した指導でつなぐ』

- ・連携校で、学習スキル系統表の作成、各教室掲示
- 【竜爪中学校区、中島中学校区】

ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5
自分の意見をもちよう	自分の意見をもちよう	自分の意見をもちよう	自分の意見をもちよう	自分の意見をもちよう
手を挙げて発表しよう	手を挙げて発表しよう	手を挙げて発表しよう	手を挙げて発表しよう	手を挙げて発表しよう
友達の意見と比べて話そう	友達の意見と比べて話そう	友達の意見と比べて話そう	友達の意見と比べて話そう	友達の意見と比べて話そう
理由を添えて話そう	理由を添えて話そう	理由を添えて話そう	理由を添えて話そう	理由を添えて話そう

中島中 切磋琢磨ステップ
話す方 編

ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5	ステップ6	ステップ7
はまっこの聞き方ステップ表	はまっこの聞き方ステップ表	はまっこの聞き方ステップ表	はまっこの聞き方ステップ表	はまっこの聞き方ステップ表	はまっこの聞き方ステップ表	はまっこの聞き方ステップ表



9年間で系統立て、発達段階に応じた学習スキルの指導が徹底できます。また、各教室に掲示することで、目指す学習の姿を児童・生徒がイメージすることができます。

○『校内研修でつなぐ』【清水第四中学校区】

- ・共通研修テーマを揃えて、各校での実践と授業研究

校内研修の中で共通研修テーマを設定し、互いに授業を見る視点、自校における授業改善への課題を明確にすることができます。



○『幼・保・小・中学校（園）のスムーズな接続・連携でつなぐ』 【東豊田中学校区、井川中学校区】

- ・幼・保・小（低学年）、小（高学年）・中学校の教員が子どもの実態の情報交換
- ・小学校から中学校までの子どもの表れを記録するシートの活用



幼・保・小・中学校（園）のそれぞれの実態、課題を教職員が共有することができ、それぞれの学校（園）において、発達段階に応じて身に付けさせるべきことを明確にもつことができます。

○『特別支援教育の指導・支援でつなぐ』【清水第六中学校区】

- ・授業における指導・支援のあり方についての学習会の実施



9年間を見通した発達段階における課題や指導方法などを、小・中教職員が学ぶ機会となり、共通に指導すべきことを共有することができます。また、子ども個々の実態と指導過程を遡って知ることで、日頃の指導に生かすことができます。

<『つなげる具体』をもつことで（教職員の感想）>

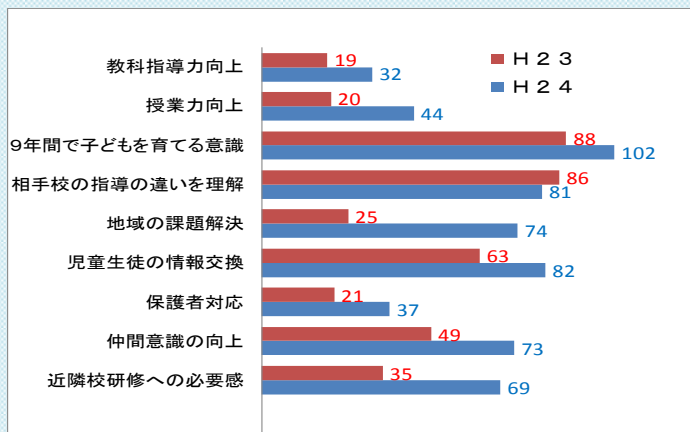
- ・小中連携のどこに視点を置くのか、考える機会になった。
- ・分科会の協議において、『つなげる具体』についての意見が焦点化され、納得いく結論に至った。
- ・この地区の子どもたち共通のよさや課題が明らかになり、身に付けさせたい力がはっきりした。
- ・小・中学校で連携が図れそうな具体的な指導目標をもててよかった。
- ・生徒指導や研修といった従前のカテゴリーを、一歩進んだ『つなげる具体』で実践できた。



<小中連携研修の成果>

小中連携研修の成果は何ですか。（複数回答可）

※数字は学校数



平成25年3月近隣校研修実施報告書より

各地区において、小中連携研修が充実してきていることがよくわかります。「地域の課題解決」「仲間意識の向上」「近隣校研修の必要感」を成果としている学校が増えており、小・中教職員が協働して地域の子どもの育てようという意識が高まってきているものと考えます。

また、「教科指導力向上」「授業力向上」を成果として挙げている学校の教職員は、お互いの学習内容を知ることによって、日頃の授業に生かすことができるものを得ているのではないのでしょうか。

<『つなげる具体』の実践から見えてきた成果・課題>

各地区において、『つなげる具体』を設定し、実践している様子から、共通してみられる成果として、次のようなことがあげられます。

- ① 小・中学校の教職員が9年間で子どもを育てようとする意識が高い。
- ② 『つなげる具体』をもとに小・中学校の教職員の協議が活性化している。
- ③ 児童・生徒理解が深まり、多面的な指導をしようとしている。
- ④ 小中連携を行う目的をはっきり共有することができている。



『つなげる具体』をもつことで、小・中教職員が何を実践すればよいのか具体的になり、小・中教職員が何について協議すればよいのか明確になります。

課題としては、次のようなことがあげられます。

- ① 『つなげる具体』がたくさんあったり、内容が大きく、あいまいになっていたりすると教職員の意識が薄くなり、指導の徹底ができなくなってしまう。
- ② 年2～3回の全体研修が単発で終わっていて、つながりがみられない。
- ③ 打ち合わせ等の日程調整が難しい。
- ④ 1つの小学校から複数の中学校に進学する中学校区では、『つなげる具体』をしぼることが難しい。

各地区の課題に応じて、『つなげる具体』を検討し、実践に結びつけようと努力している様子をうかがうことができました。小中連携研修の情報交換から一歩踏み出した取組を実践している地区が増えています。この『つなげる具体』の取組は、はじめたばかりではありますが、小中連携研修の本質的な成果「教育観の広がり・深まり」「仲間意識の芽生え・高まり」「子どもの変容」に向けての手だてとなるものと考えています。10年前と比べると小学校、中学校のそれぞれの教育活動の理解が深まり、小中9年間で子どもを育てるといった教職員の意識は高まってきていることは確かです。



<小中連携研修の更なる充実・発展に向けて>

<今後の取組を協議する中で確認してほしいこと>

○ 実現可能な『つなげる具体』にしぼり指導を徹底していく。

いくつかある『つなげる具体』をしぼり、内容をより具体的にし、今年度はこれについて、これだけは、みんなで意識して、徹底していきましょうというものにしていくことが大切です。

この『つなげる具体』を教職員一人一人が意識し、実践できるものにしたいです。

○ 年間の研修会につながりをもたせ成果・課題を蓄積していく。

1年間の研修会につながりをもたせ、成果と課題を次に生かすこと、そして蓄積していくことが重要になってきます。

限られた時間、日数の中で、どう充実させればよいのか、研修会をつなげる工夫が大切です。

○ 子どもの変容の姿から『つなげる具体』を評価する。

『つなげる具体』をどう評価するかが大切です。この小中連携研修のゴールは子どもの変容です。そのため、できる限り子どもの姿で評価していくことが重要であると考えます。そして、教職員に対し、その評価を見える化することです。